

第7回被爆二世臨床調査科学倫理委員会を開催

広島・臨床研究部長 大石和佳

第7回被爆二世臨床調査科学倫理委員会が2017年11月29日(水)、放影研広島研究所で開催され、被爆二世臨床調査の進捗状況および予備解析結果の報告と審議が行われました。

2002～2006年の被爆二世臨床調査(第1健診サイクル)では、親の放射線被ばくと子どもが多因子疾患(高血圧、高コレステロール血症、糖尿病、狭心症、心筋梗塞、脳卒中)有病率の関連性を調べた結果、親の放射線被ばくに関連した多因子疾患のリスク増加を示す証拠はみられませんでした。しかし、有病率調査では受診の意思決定に偏りを生じる傾向があること、対象者の方の平均年齢が約49歳と若いなどの理由で継続調査の必要性が報告され、2010年11月より約12,000人を対象に被爆二世臨床縦断調査(第2健診サイクル)を開始しました。

議事は、丹羽太貫 理事長のあいさつで始まり、児玉和紀 主席研究員による委員の紹介、司会の上島弘嗣 副委員長(委員長代理)のあいさつに続いて大石が、1) 第2健診サイクルの受診者は10,426人で、目標の受診率80%をほぼ達成、2) 2014年11月に開始した第3健診サイクルの受診率は現時点で73.3%、将来の研究のための血液・尿保存の高い同意率が維持され(遺伝子解析研究以外約99%、遺伝子解析研究約97%)、調査が順調に進んでいることを報告しました。次に、立川佳美 副部長が、第1・2健診サイクルにおける1) 親の放射線被ばくと多因子疾患(高血圧、高LDLコレステロール血症、高トリグリセリド血症、糖尿病)の有病率との関連、2) 親の放射線被ばくと多因子疾患(上述)の発生率との関連について、予備解析結果を報告しました。

上島委員長代理の司会で活発な質疑が行われ、委員の先生方から調査の進め方や本解析で考慮すべき点について貴重な意見を頂くことができました。最後に、上島委員長代理による総括、Robert L. Ullrich 副理事長による閉会のあいさつと謝辞で委員会は締めくくられました。

これからも被爆二世臨床調査で高い受診率と同意率を維持できるよう努力を続けるとともに、この調査が受診者の方々の疾患の早期発見・早期治療や健康管理に役立つよう、健診の内容を充実していきたいと考えています。

被爆二世臨床調査科学倫理委員会メンバー

| | | |
|------|-------|------------------------|
| 委員長 | 島尾 忠男 | 公益財団法人 結核予防会 顧問 |
| 副委員長 | 上島 弘嗣 | 滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授 |
| 委員 | 川本 隆史 | 国際基督教大学教養学部 教授 |
| | 木村 晋介 | 木村晋介法律事務所 弁護士 |
| | 佐々木英夫 | 安田女子大学家政学部管理栄養学科 教授 |

田島 和雄 三重大学 客員教授
 洗心福祉会 理事、(兼) 美杉クリニック 院長
 愛知がんセンター 名誉研究所長

朝長万左男 長崎大学名誉教授

野村 大成 大阪大学名誉教授
 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
 疾患モデル小動物研究室 プロジェクトリーダー

早川 武彦 広島大学名誉教授

福嶋 義光 信州大学医学部 特任教授

振津かつみ 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
 疾患モデル小動物研究室 特任研究員

丸山 英二 慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科 特任教授

David B. Richardson ノースカロライナ大学公衆衛生学部疫学科 准教授

放影研：

丹羽 太貴 理事長
 Robert L. Ullrich 副理事長 兼 業務執行理事
 橋爪 章 業務執行理事
 Eric J Grant 主席研究員
 児玉 和紀 主席研究員
 Douglas C. Solvie 事務局長

および

被爆二世臨床調査プロジェクトグループメンバー
 臨床研究部研究員



委員会の様子



司会進行役の上島副委員長 (委員長代理)